

革新懇の三つの共同目標

- ①経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ②憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③日米安保条約をなくし、非同盟・中立の平和な日本をめざします。

# 鳥取県革新懇ニュース

No.88

2023年12月  
2024年1月  
合併号

〒680-0833 鳥取市末広温泉町211誠ビル3階(鳥取県労連気付)  
TEL0857-21-3171 FAX0857-21-3172

## 野党共闘が成功すれば 政権交代が可能な情勢

### “STOP！大軍拡”講演会で小林節さん

鳥取県革新懇は11月19日、琴浦町まなびタウン東伯で、小林節全国革新懇代表世話人・慶応大学名誉教授を講師に、「『STOP！大軍拡』講演会」を開催し、160人が参加しました。

司会し、岩永尚之代表世話人の開会あいさつのあと、小林氏は、「憲法で保障された私たちの暮らしを守る政治とは？」と題して講演しました。

小林氏は、ウクライナやガザ攻撃にふれ、「国内で殺人を犯したら国内に留まる限り、専守防衛の第二警察として存在は合法的だが、海外に出れば軍隊になり、明白な憲法違反となる」と述べ、ストップをかけるのは、「持論」としながら、野党連合政権に政権交代して戦争法を廃止することだと訴えました。

自衛隊について、「国内に留まる限り、専守防衛の第二警察として存在は合法的だが、海外に出れば軍隊になり、明白な憲法違反となる」と述べ、ストップをかけるのは、「持論」としながら、野党連合政権に政権交代して戦争法を廃止することだと訴えました。



(鳥取県革新懇)

よって処罰されるが、『自衛』戦争は国際社会では合法で、戦争する国に処罰を与える世界統一政府はない」と述べ、同じ文明を共有する人間としてじくじたる思いでいると語りました。

小林氏は、当時の日本はオウム真理教や統一協会みたいなマインドコントロール下であり、憲法が国家権力をしぼる立憲主義の憲法は望めなかった。そのためGHQ草案がたたき台になった。70年間改定されなかったのは国民のストライクゾーンに入ったためで、国民は抱きしめ身に着けた。

小林氏は、当時の日本はオウム真理教や統一協会みたいなマインドコントロール下であり、憲法が国家権力をしぼる立憲主義の憲法は望めなかった。そのためGHQ草案がたたき台になった。70年間改定されなかったのは国民のストライクゾーンに入ったためで、国民は抱きしめ身に着けた。



小林氏は、当時の日本はオウム真理教や統一協会みたいなマインドコントロール下であり、憲法が国家権力をしぼる立憲主義の憲法は望めなかった。そのためGHQ草案がたたき台になった。70年間改定されなかったのは国民のストライクゾーンに入ったためで、国民は抱きしめ身に着けた。

小林氏は、当時の日本はオウム真理教や統一協会みたいなマインドコントロール下であり、憲法が国家権力をしぼる立憲主義の憲法は望めなかった。そのためGHQ草案がたたき台になった。70年間改定されなかったのは国民のストライクゾーンに入ったためで、国民は抱きしめ身に着けた。

小林氏は、当時の日本はオウム真理教や統一協会みたいなマインドコントロール下であり、憲法が国家権力をしぼる立憲主義の憲法は望めなかった。そのためGHQ草案がたたき台になった。70年間改定されなかったのは国民のストライクゾーンに入ったためで、国民は抱きしめ身に着けた。

小林氏は、当時の日本はオウム真理教や統一協会みたいなマインドコントロール下であり、憲法が国家権力をしぼる立憲主義の憲法は望めなかった。そのためGHQ草案がたたき台になった。70年間改定されなかったのは国民のストライクゾーンに入ったためで、国民は抱きしめ身に着けた。



STOP！大軍拡講演会  
平和・民主主義・豊かな暮らしをめざす鳥取の会  
(鳥取県革新懇)

# 活動の中での青年の変化

民青同盟鳥取県委員会 委員長 杉本純平

今、岸田政権が敵基地攻撃能力保有・大軍拡の推進、物価高騰と遅々と増えている、鳥取県同盟では今年が去年の5倍以上になり、鳥取県内の計8つの駅と食料支援活動、それから鳥取大学入試で青年を仲間を迎えてきました。加わった高校生や学生、社会人は「YouTubeやテレビの評論家の話は信用ならない、民青で日本と外交の関係性について勉強したい」「卵が高い、

岸田政権は税金の値上げやめる」「日本共産党員ってこんなにいるんですね」「お金がかかるので就職する予定です」「学費は高いと思う。学費は親が払ってくれるけど、生活費は自分で払う感じになると思う。消費税も下げたい」「世の中を変えたい」「自分の高校は冬に制服の上に羽織るものに制限があつて寒い、ブラック校則を感じる」「大企業優遇が気になった」「マルクスの資本論は聞いたことがある、資本主義と民主主義は合わないと思う」「日本はアメリカを優遇している感じがする、戦争は嫌ですね」「国際関係を学びたい」「イスラエルのことや消費税減税に興味があります」と話します。深刻な実態を抱え展望が見えないなかで、「できることならばなんとかしたい」と模索しています。街頭で対話するとほとんどの不満や不安、怒りが次々出てきます。加盟した学生Aさんは学習会で学ぶ

中でマルクスの自由の国について詳しく知りたいと社会への展望を掴みつつあります。青年の政治的模索が、展望と結びつき、新しい政治を切りひらく巨大なうねりに変化するならば、日本の政治は一変します。これからたくさんの方を迎え、一緒に学び行動していきたいです。



シール投票に参加する高校生と、対話する同盟員

声明  
イスラエルは直ちにガザでのジェノサイドを中止せよ！  
日本政府は停戦に向けて具体的な行動を起こせ！

2023年12月1日  
平和・民主主義・豊かな暮らしをめざす鳥取県の会  
(略称：鳥取県革新懇)

- 代表世話人 伊藤 英司
- 代表世話人 岩永 尚之
- 代表世話人 杉本 純平
- 代表世話人 田中 暁
- 代表世話人 錦織 陽子
- 代表世話人 長谷川 稔
- 代表世話人 山中 幸子
- 代表世話人 山内 淳子

イスラエルの大規模攻撃により、パレスチナ・ガザ地区の人道状況は、「子どもたちの墓場と化し、人々の生き地獄となっている」(ユニセフ)とも言われる深刻な危機に直面しています。私たち鳥取県革新懇は、ガザでの事態に心を痛めるとともに、日本政府には、これまで中東諸国やガザへの支援にもかかわらず経緯も踏まえ、この人道的危機を一刻も早く止めるために「ガザでのジェノサイドを許すな！ガザ攻撃中止と即時停戦」に向け具体的な行動を起こすよう強く求めます。

この間、イスラエル軍は、ガザ北部のジャバリヤ難民キャンプへの連続的な空爆、患者をのせた救急車の車列へのミサイル攻撃など、空と陸と海から大規模攻撃を行い、多数の民間人が犠牲となっています。この1カ月でガザでは1万人以上が犠牲となり、その4割は子どもと報じられています。イスラエルによる攻撃は、その一つひとつが明白な国際人道法違反の戦争犯罪で、ジェノサイド条約が固く禁じている集団殺害=ジェノサイドであり、国と国際社会はこれを決して許してはなりません。鳥取県革新懇は、多数の民間人の命を奪い、甚大な犠牲を強いているイスラエルによる軍事行動を強く非難するとともに、ハマスによるすべての人質の即時解放を求めます。

日本国憲法前文では、「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有する」と謳い、国際紛争解決の手段としての戦争を永久に放棄した憲法をもつ国として、私たち鳥取県革新懇はガザの深刻な人道的危機を打開することを大きな世論にし、解決のために行動することをみなさんに呼びかけます。

以上

## 年金者組合東部支部が集い

全日本年金者組合鳥取県東部支部は12月2日、鳥取市で「女性議員&年金者仲間」で年金問題を語り合う会を開催、20名が参加しました。女性組合員を対象にした生活実態調査では、家計は生存の維持がやっとで、住居などの維持や運転免許証返納後の生活不安や、介護ニーズはあっても、8割近くが介護保険を利用していなくて、様々な不安や困りごとに晒されている実態が報告されました。その後の話し合いでは、実質的生活

保護基準(13万円)以下の年金受給者には圧倒的に女性が多いこと、受給額の男女間格差大きいことなどをグラフで可視化し、参加者からは改めて驚きと怒りの声が上がりました。

3つの班に分かれて行ったグループトークでは、女性の低年金問題をめぐり、「子育て途中でいったん離職、育休補償など継続できる制度改革が必要」と、全世代が連帯する国民的運動の高揚を論ずる金田組合員(鳥取市議)の報告も輝きました。(年金者組合東部支部「げんきニュース」12月12日号より抜粋)

